

研究発表会開催通知

(昭和 62 年 4 月 15 日～5 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
知 識 工 学 と 人 工 知 能	5 月 7 日(木) 5 月 8 日(金)	13:30～17:00 9:20～17:00	機械振興会館	下記参照
文書処理と ヒューマンインタフェース	5 月 14 日(木)	13:30～17:00	同 上	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	5 月 18 日(月)	10:00～17:00	日 本 I B M	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	5 月 18 日(月)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
情 報 シ ス テ ム	5 月 19 日(火)	13:30～17:00	慶 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5 月 21 日(木)	13:00～17:00	静 岡 大	同 上
設 計 自 動 化	5 月 21 日(木)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上
マルチメディア通信と分散処理	5 月 21 日(木)	10:00～17:00	K D D 研	同 上
自 然 言 語 処 理	5 月 22 日(金)	10:30～16:00	A T R	同 上
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	5 月 22 日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	5 月 27 日(水)	13:30～17:00	同 上	同 上

◆ 第 52 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 12 件)

(主査: 堂下修司, 幹事: 西田豊明, 米澤明憲)

- 日 時 昭和 62 年 5 月 7 日 (木) 午後 1 時半～5 時
5 月 8 日 (金) 午前 9 時 20 分～午後 5 時
- 会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室
〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 渋谷ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車. Tel. 03 (434) 8211〕
- 議 題 5 月 7 日 (木) (4 件)
- (1) 不確実な知識における ATMS
董方 清, 中川裕志 (横浜国大・電子情報)
〔概要〕 ATMS を不確実な知識の取り扱いへ拡張し, 不確実な知識における推論の問題点に対して解決方法を与える.
- (2) 典型的という性質を用いた知識再構成
萱島 信, 中川裕志 (横浜国大・電子情報)
〔概要〕 矛盾原因の中から, 典型的という性質を用いて原因を特定し, 概念階層の知識を再構成する方法について論じる.
- (3) 代表元を使った知識ベースモデル 坂間千秋 (ICOT)
〔概要〕 ホーン論理で表された知識ベースにおいて, リテラルの集合を意味上の

同値類に分類し、その代表元によって知識を利用する方法について述べる。

(4) 知識獲得支援システム (EPSILON) における専門家モデル

滝 寛和 (ICOT)

〔概要〕 知識獲得向きの Generic Operations を持った専門家モデル (構造的知識表現) について報告する。

5月8日(金) 9:20~11:50 (3件)

(5) 量に関する不十分な情報に基づく推論

網谷勝俊, 西田豊明, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 算術式によって関係づけられた量に関する情報を蓄積・検索するための効率的な情報管理・推論方式について報告する。

(6) 手続きグラフの一般化による例題からのプログラム合成

石橋勇人, 西田豊明, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 手続きグラフを用いた例題からのプログラム合成システムについて、手続きグラフの一般化を中心に述べる。

(7) Lazy Evaluation をもつ非決定性 LISP の意味論

島田陽一, 山崎 進, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 Lazy Evaluation をもつ非決定性 LISP を定義し、その表示的意味と操作的意味が一致することを示す。

12:50~17:00 (5件)

(8) ガード付節集合による知識表現とその処理システムの構成

淡誠一郎, 青木直明, 北橋忠宏, 手塚慶一 (阪大)

〔概要〕 拡張節形式であるガード付節形式とその証明法を提案する。実験システムを構成し、その有効性を検討する。

(9) 分散型問題解決のための一通信方式

北村康彦, 小川 均, 北橋忠宏 (阪大)

〔概要〕 分散型問題解決の通信方式として、回覧板をメタフォとした優先度付き問題解決プロトコルを提案する。

(10) 知的インタビューシステム I²S に基づくデータベース構築・利用システム

川口敦生, 沼田 薫, 溝口理一郎, 山口高平, 角所 収 (阪大・産研)

〔概要〕 論理設計支援を中心に、データベースの構築作業および利用過程をトータルに支援するシステムについて報告する。

(11) ルールの間接的関連性を利用したパターンマッチングアルゴリズム

藤井和之 (清水建設), 上野晴樹 (電機大)

〔概要〕 ルール間の間接的関連性に注目したパターンマッチングアルゴリズムを提案する。

(12) 知的ユーザインタフェースにおけるユーザ概念・知識の抽出

浜川 礼, 川越恭二 (日電)

〔概要〕 個々のユーザに適応したインタフェースを提供する対話モデル及びユーザの対話履歴分析手法について述べる。

◆ 第12回 文書処理とヒューマンインタフェース（日本語文書処理）研究会

（発表件数：4件）

（主査：木村 泉，幹事：角田博保，黒須正明，首藤正道）

日時 昭和62年5月14日（木）午後1時半～5時

会場 機械振興会館 6階 67号室（所在地は前記参照）

議題 （1）汎用欧文清書系をもとにした和欧混植清算書系に対する考察

山内長承（日本 IBM）

〔概要〕 清書系 JANUS の漢字化について報告し JTeX, jtroff, JANUS から漢字化の問題点を抽出し，多言語清書系を考察する。

（2）変換型日本語入力方式の打鍵レベルでの比較評価

角田博保，田原潤一（電通大・計算機科学）

〔概要〕 各種変換型日本語入力方式に対してテキスト打鍵時間データを採り，打鍵レベルでの比較評価を行った。

（3）日本語入力方式の評価法と，これによる各種入力方式の評価結果

森田正典（日電），北崎俊郎（日本電気エンジニアリング）

〔概要〕 各種日本語入力方式を尺度・指標を定義して比較評価し，入力速度に関する近似的な学習曲線を求めた。

（4）「日本語入力法研究委員会」からの8年の歩み 山田尚勇（東大・理）

〔概要〕 日本語入力法研究委員会の発足から，日本語入力方式研究会，日本語文書処理研究会を経た，8年の歩みを顧みる。

◆ 第59回 データベース・システム研究会

（発表件数：8件）

（主査：上林弥彦，幹事：石井義興，大里博志，鈴木健司）

日時 昭和62年5月18日（月）午前10時～午後5時

会場 日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所

〔東京都千代田区三番町 5-19 第36興和ビル，地下鉄：半蔵門線半蔵門下車徒歩5分，新宿線：九段下車徒歩10分，国鉄（中央線・総武線）：市ヶ谷下車徒歩10分。Tel. 03 (265) 4243〕

議題 一般：10：00～12：00（3件）

（1）オフィスフォーム自動生成システム 渡部和雄，鶴岡邦敏（日電）

〔概要〕 オフィスで使用するフォーム（帳票・管理表）を一般の利用者が容易に作成できるシステムについて述べる。

（2）民族学研究のためのカラー画像蓄積・検索システム

洪 政国，井岡幹博，佐藤真知子，黒川雅人（日本 IBM）

杉田繁治，久保正敏，山本泰則（国立民族学博物館）

〔概要〕 データ，利用者，利用方法等の特徴及び基本機能について検討し，現在構築中のプロトタイプについて報告する。

（3）非正規形と複合オブジェクトに関する国際ワークショップ報告

小林功武（産能大），上林弥彦（九大），田中克己（神戸大）

〔概要〕 87年4月にドイツのダルムシュタットで開催された標記のワークショップについて報告する。

特集：データベースの標準化動向 (13: 00~17: 00) (5 件)

〔ISO/TC 97/SC 21/WG 3 におけるデータベース標準化の検討状況について〕

(4) データ管理参照モデル (DMRM) 穂鷹良介 (筑波大・社会学)

〔概要〕 データ管理のさまざまな局面のインタフェースを統合的な立場から位置づける考え方について紹介する。

(5) データベース言語 NDL 横山一郎 (日立)

〔概要〕 NDL はネットワーク構造のデータベースを扱うデータベース言語で、制定の経緯とその内容について述べる。

(6) データベース言語 SQL 芝野耕司 (日本 IBM)

〔概要〕 ISO, JIS 標準として規格化作業が行われているデータベース言語 SQL とその拡張について述べる。

(7) 情報資源辞書システム (IRDS) 溝口徹夫 (三菱電機)

〔概要〕 ISO 標準として現在作業が行われている情報資源辞書システム (IRDS) の背景、機能、構成について述べる。

(8) リモートデータベースアクセス (RDA) 鈴木健司 (NTT 通研)

〔概要〕 ISO 標準として検討が進められているリモートデータベースアクセスのサービスとプロトコルについて述べる。

◆ 第 26 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 中嶋正之, 真名垣昌夫, 守屋慎次)

日 時 昭和 62 年 5 月 18 日 (月) 午後 1 時~5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) TIP—PC/X によるメイズ・ルータ 藤田善弘 (日電)

〔概要〕 ImPP を用いた画像処理システム—TIP—PC/X によるメイズ・ルータについて報告する。

(2) 自己相似法による周期パターンの作成

渡辺泰成, 相馬 嵩, 出澤正徳 (理研)

〔概要〕 自己相似法による非周期パターンの生成法と結晶における電子線の回折像との関係について述べる。

(3) 有限要素解析のための三角形自動要素分割 (3 節—6 節点要素の生成)

奥田 敏, 福井幸男 (製品科学研)

〔概要〕 有限要素解析を実行するために必要となる三角形 3 節点及び 6 節点要素を自動生成するアルゴリズム。

(4) 3次元ランダムフラクタルによるソリッドテクスチャ生成に関する検討

岡田 稔, 多賀雄伸, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大・工)

〔概要〕 3次元ランダムフラクタルの手法を提案し, ソリッドテクスチャ生成への応用とメモリ節減の検討について述べる。

(5) 原図形の視覚的特徴を保存する線分近似法

青山 宏, 河越正弘 (電総研)

〔概要〕 線分近似法を, 認識・表示の手段としてみた時の不自然な近似を解決する一アルゴリズムを提案する。

(6) 道路網表示に適した曲線補間法に関する検討

中嶋正之, 安居院猛 (東工大・像情報), 鈴木謙二 (東芝)

〔概要〕 オートナビゲーションにおける道路データの表示法としてのバットランド曲線の適用に関する検討。

◆ 第14回 情報システム研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 浦 昭二, 幹事: 岩丸良明, 橋本茂司, 松谷泰行)

日時 昭和62年5月19日(火) 午後1時半～5時

会場 慶応大学 日吉図書館 AVホール(地下1館)

〔横浜市港北区日吉 3-14-1, 東横線: 日吉下車(東口) 徒歩3分。

Tel. 044 (63) 1141〕

議題 特集: 医療情報システム

(1) 失語症患者のための治療支援システム

Beshr B. Bakhit, 浦 昭二 (慶大・理工)

〔概要〕 失語症患者のためのコンピュータ支援リハビリシステムの構想を従来のリハビリ方法との関連で検討する。

(2) 地域医療需要分析システム

佐藤知一 (日揮)

〔概要〕 数理モデルに基づき, 競合下での病院の患者数を予測する「地域医療需要分析システム」の概要につき説明する。

(3) 健康管理の全社ネットワークシステム

内山敬司 (富士通)

〔概要〕 従来使用してきたシステムをレベルアップし, 全社的に同一レベルの健康管理を可能とするネットワークを構築した。

(4) オーダリングによる総合病院情報システム 酒井順哉 (鹿児島大・医)

〔概要〕 鹿児島大学で構築した総合病院情報システムは, 発生源入力を中心として診療支援・病院管理に有効利用されている。

◆ 第48回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 白井良明, 幹事: 松山隆司, 吉田真澄)

日時 昭和62年5月21日(木) 午後1時～5時

会場 静岡大学 工学部 図書館視聴覚室

〔浜松市城北 3-5-1, 国鉄(新幹線): 浜松下車, バス(北口): 15番・16番で工学部前で下車(約20分), タクシー(約10分). Tel. 0534 (71) 1171〕

議題 (1) 医用画像におけるコンピュータ応用の現状と将来

堀場勇夫 (日立メディコ研究開発センター)

〔概要〕 近年急速な進展をみせている医用画像分野におけるコンピュータ応用について現状と将来展望をサーベイする。

(2) 胃X線写真からの局所的異常の候補の検出

喜多泰代, 白井良明 (電総研)

〔概要〕 胃X線写真から高精度に胃の輪郭を抽出する手法を開発し, 局所的異常の候補の検出が可能となったので報告する。

(3) ステレオ法による多面体の再構成 渡辺凡夫 (名古屋工大・電気情報)

〔概要〕 多面点画像より稜線を抽出し、補間を行って頂点間の対応付けをし、多面体の形状パラメータを求める。

(4) ノイズに強いオプティカルフローからの3次元復元

金谷健一, 吉田淳一郎 (群大・工)

〔概要〕 運動する多面体の2枚の実画像に金谷の解析解を用い、杉原の多面体最適化を改良して適用する。

(5) 階層表現による手書き記号図形の大局的変形のモデル化

喜多伸之, 河越正弘 (電総研)

〔概要〕 線分レベルの図形構造に起因する変形をモデル化し、手書き記号図形を擬似生成する。

(6) 複数の画像を用いて状態を記憶する図面認識の制御法

猪飼秀隆, 阿部圭一 (静岡大・工)

〔概要〕 図面認識過程の状態を複数枚の画像データとして記憶する制御法を文字と図形の分離処理に応用した。

(7) 懇親会 (18:00~)

◆ 第37回 設計自動化研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 樹下行三, 幹事: 安藤 宏, 井上隆秀, 川西 宏)

日時 昭和62年5月21日(木) 午後1時半~5時

会場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議題 (1) 自動論理合成システム LUNA の適用と評価

黒澤雄一, 増渕美生, 西尾誠一, 上田隆司, 宮田 操 (東芝総研)

〔概要〕 自動論理合成システム LUNA の実設計への適用結果をもとに LUNA の評価, 設計手法, 機能拡張等を論ずる。

(2) ブロック上通過配線処理手法

木下善彦 (ソニー)

〔概要〕 階層設計時に下位ブロックの空き領域を有効利用し, チップ面積の縮小を図るブロック上通過配線処理手法。

(3) アレイ構造をもつモジュールの自動生成システムについて

西口信行, 辻原悦子, 川西 宏, 古木勝也, 新藤 猛, 中村 弘 (日電)

〔概要〕 アレイ構造をもつモジュール (ROM, RAM, PLA 等) の自動生成システムについて概要, 適用結果を述べる。

(4) ISSCC '87 報告

佐藤 耐 (東芝)

〔概要〕 本年2月に米国で開催された ISSCC '87 について, 32 bit μ PU, セミカスタムアレイ, メモリ付きロジック等の設計手法を中心に報告する。

◆ 第33回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 松下 温, 幹事: 浦野義頼, 山崎晴明, 若山博文)

日時 昭和62年5月21日(木) 午前10時~午後5時

会場 国際電電 (KDD) 研究所 第一会議室

〔東京都目黒区中目黒 2-1-23, 国鉄: 恵比寿 (西口) 下車, 地下鉄: 日比谷線 恵比寿下車, 山手線の外側三井銀行の左を入り, 徒歩6分. Tel. 03 (713) 0111〕

議題 特集: プロトコル技術

(1) 「プロトコル技術」の現状と展望

松下 温 (沖電気), 浦野義頼 (KDD 研)

〔概要〕 OSI を中心としてプロトコル関連諸技術の現状とその将来を展望する.

(2) OSI 応用層の最近の標準化動向

森野和好 (NTT 通研)

〔概要〕 今年1月～3月に開催された SC21 の国際会議における主要結果を述べる. また, 若干の分析を行い, 今後を展望する.

(3) プロトコル変換の理論

奥村 薫 (日本 IBM)

〔概要〕 フォーマルな手法を用いてプロトコル変換の一般的な理論の可能性を論じる.

(4) ユーザフレンドリィなプロトコル検証システムの構成

岡崎直宣, 相沢茂喜, 高橋 薫, 白鳥則郎, 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 実世界でよく用いられる到達可能性グラフに基づくプロトコル検証法をユーザフレンドリィなシステムとして構成した結果について報告する.

(5) オブジェクト指向言語 (SPICE) による通信ソフトウェアの開発

勝山光太郎, 佐藤文明, 中川路哲男, 水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 C 言語を基にしたオブジェクト指向言語 (SPICE) を用いて OSI の上位層 (FTAM, ACSE, プレゼンテーションプロトコル) を実装したので報告する.

(6) OSI FTAM, ACSE, プレゼンテーションプロトコルの実装

小花貞夫, 加藤聰彦, 鈴木健二 (KDD 研)

〔概要〕 OSI の FTAM, ACSE, プレゼンテーションプロトコルの実装状況を報告する.

(7) センタ型電子メールシステム ELMS と MHS との相互接続

加藤聰彦, 鈴木健二 (KDD 研)

〔概要〕 電子メールシステム ELMS と MHS の相互接続について報告する.

(8) 統合テレマティクス通信ネットワークシステム (ITECS)—TISE (DTAM)

の提案とその実証—

中尾康二, 小花貞夫, 浦野義頼 (KDD 研)

〔概要〕 筆者らの提案 TISE に基づいて CCITT が検討を始めた DTAM をベースにして構築した統合テレマティクス通信ネットワークシステム (ITECS) について報告する.

(9) 見 学 (16:30~17:30)

(6)・(7)・(8)に関連するシステム KDD 研究所 (情報処理研究室) の見学

◆ 第61回 自然言語処理研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 吉田 将, 幹事: 田中穂積, 野村浩郷, 日高 達)

日 時 昭和62年5月22日 (金) 午前10時半~午後4時

会 場 ATR 自動翻訳電話研究所

[大阪市東区城見 2-1-61 (ツイン 21 MID タワー), 大阪環状線: 京橋または大阪城公園下車, 徒歩7分. Tel. 06 (949) 1830]

議 題 (1) 英文科学技術文書の機能語について

松尾文碩, 二村祥一 (九大・大型計算機センター)

〔概要〕 英文科学技術文献抄録文から統計的手法により抽出した約 1,700 語の機能語について述べる。

(2) テンス・アスペクト情報の処理について

中園 薫, 古瀬 蔵, 野村浩郷 (NTT 通研)

〔概要〕 機械翻訳において自然な訳文を得るための、動詞の素性に基づいたテンス・アスペクト情報の処理法を提案する。

(3) 多重領域をサポートした意味解析言語

松島利幸 (日立ソフトウェアエンジニアリング)

〔概要〕 オブジェクトの集合を複数の部分領域にわけ、モジュール化することで、異なった文脈での意味解析に対処できる。

(4) 英日機械翻訳システムにおける英文の解析について

野上宏康, 杉浦裕美子, 平川秀樹, 天野真家 (東芝総研)

〔概要〕 技術文等に現われる言語外現象をも含めた大きな枠組での構文・意味解析方法について述べる。

(5) メディアに依存する会話の構式—電話会話とキーボード会話の比較—

有田英一, 小暮 潔, 野垣内出, 飯田 仁 (ATR)

〔概要〕 電話会話とキーボード会話を、統語構造、談話の構造の面から比較した結果を報告する。

(6) 「談話等における意図とプラン」ワークショップ報告

相沢輝昭 (ATR), 土屋 俊 (千葉大・文)

〔概要〕 3月4日～6日に SRI 主催でモントレイで行われたワークショップ「談話等における意図とプラン」の概要を報告する。

◆ 第11回 プログラミング言語研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 斉藤信男, 幹事: 石畑 清, 寛 捷彦, 安村通晃)

日 時 昭和 62 年 5 月 22 日 (金) 午後 1 時～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 拡張 Pascal の概要 寛 捷彦 (早大)

〔概要〕 拡張 Pascal の素案が作業グループから提出され、ISO で検討中である。その素案の内容を紹介する。

(2) Lisp の動向について 湯浅太一 (京大)

〔概要〕 Common Lisp, EuLisp, Scheme 等の最近の Lisp の動向を報告する。

(3) 第四代言語の原理 石田康勝 (CSK)

〔概要〕 近年注目されてきた第四代言語 (4 GL) の原理面について、先端的 4 GL である STYLE® を例にとり発表する。

(4) ドキュメントマークアップ言語: TEX

北川和裕, 斉藤信男 (慶大・理工)

〔概要〕 ドキュメントマークアップ言語としての TEX の特性と TEX のプログラミング方法論を述べる。

◆ 第 53 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 花田收悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日 時 昭和 62 年 5 月 27 日 (水) 午後 1 時半 ~ 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 第 9 回ソフトウェア工学国際会議 (9th ICSE) 報告

落水浩一郎 (静岡大)

〔概要〕 1987 年 3 月 30 日 ~ 4 月 2 日に米国カリフォルニア州 モンテレーで開催された 9th ICSE について報告する.

(2) 複数言語システム下でのユーザインタフェース開発支援環境

松田裕幸, 波多野豊治, 松永祥嗣 (日電技術情報), 渡辺正信 (日電)

〔概要〕 複数のプログラミング言語からなるシステムのユーザインタフェースをプロトタイプする際の一方式について報告する.

(3) インクリメンタルな属性評価の一手法 海尻賢二 (信州大・工)

〔概要〕 非循環属性文法に対するオートマトンを利用した属性評価法の, インクリメンタルな評価への拡張について述べる.

(4) 順位による誤差分散を考慮したソフトウェア信頼度成長曲線の適合度検定

石岡恒憲 (リコー)

〔概要〕 規準化 2 重指数分布の順序統計量の分布を用い, 順位による誤差分散を考慮した適合度検定法を提案する.

昭和 62 年度研究会のお知らせ

昭和 62 年度は、下記の通り 18 研究会で行います。

- 年間を通して参加の場合は登録をお願いします。(但し本学会員に限る。)
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ¥1,000 (学生 ¥500)をいただきます。
(但し、部数に制限があります。)

研 究 会 名	主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
1 自然言語処理	○吉田 将 田中穂積 日高 達 野村浩郷	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2 データベース・システム	○上林弥彦 石井義興 鈴木健司 大里博志	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB マシン, アーキテクチャ, マルチメディア DB, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB
3 知識工学と人工知能	○堂下修司 西田豊明 米澤明恵	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4 記号処理	○和田英一 井田昌之 元吉文男 小川貴英	記号処理言語と処理系, 記号処理の理論と応用(数式処理, 言語処理, ゲーム, 知識ベース, 論理プログラミング, ラムダ算術, 関数型言語など), 記号処理アーキテクチャ, 記号処理の技法
5 ソフトウェア工学	○花田收悦 落水浩一郎 春原 猛 紫合 治	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, プログラミング言語, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, エキスパートシステム, 管理, メトリクス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6 マイクロコンピュータ	○若島陸夫 岡田義邦 山田 剛 森本陽二郎	1. マイクロコンピュータ, パーソナルコンピュータ本体の研究 2. 応用システム, OS, 言語, ソフトウェアの研究 3. システム方式, 素子及び周辺機器の研究 4. 入出力方式, 通信方式, 標準化の研究
7 計算機アーキテクチャ	○田中英彦 喜連川優 長谷川隆三	計算機システムの設計・構成・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列アーキテクチャ
8 オペレーティング・システム	○亀田壽夫 紀 一誠 野口健一郎	OS の基礎概念, 構造論, 人工学的評価, プログラミング環境, 分散処理 OS, 並列処理 OS, 新世代 OS, システム性能評価, モデル化技法, 信頼性
9 コンピュータビジョン	○白井良明 松山隆司 吉田真澄	画像処理一般, 物体認識, ロボットビジョン, 動画画像解析, 画像データベース, 画像処理用ハードウェア, 視覚系のモデル
10 設計自動化	○樹下行三 安藤 宏 川西 宏 井上隆秀	LSI/VLSI・プリント板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データベース, 知識ベース CAD, 設計検証・テスト評価
11 マルチメディア通信と分散処理	○松下 温 浦野義頼 若山博文 山崎晴明	1. マルチメディアによる高度情報通信ネットワークの構築技術とその応用 2. 機能分散, 負荷分散などの分散処理システムの設計と運用技術
12 文書処理とヒューマンインタフェース (日本語文書処理)	○木村 泉 角田博保 首藤正道 黒須正明	1. 計算機システムのヒューマンインタフェース 2. 思考メカニズムとメンタルモデル 3. 日本語入力方式 4. 文書処理方式と制御言語 5. OA とのかかわり
13 グラフィクスと CAD	○川合 慧 中島正之 守屋慎次 真名垣昌夫	グラフィクス ソフトウェア, グラフィクス ハードウェア, グラフィクス言語, 標準化, 図形処理と表示のアルゴリズム, 形状処理, 表示技術, アニメーション, ユーザインタフェース, 図形データベース, 図面の認識と理解, ワークステーション, CAD/CAM, AI の CAD への応用
14 数値解析	○森 正武 唐木幸比古 福井義成 野寺 隆	数値計算とその解析, スーパーコンピュータによる超大型計算, 数学ソフトウェアの移植, 数式処理との結合, 計算機や言語への提案
15 ソフトウェア基礎論	○広瀬 健 佐々政孝 新田克己 所真理雄	1. ソフトウェアの理論的基礎: 形式的仕様記述と検証, 並列・分散処理など 2. 計算モデル: 論理型, 関数型など 3. プログラミングの基礎: 自動合成と変換, パラダイムなど
16 情報システム	○浦 昭二 岩丸良明 松谷泰行 橋本茂司	情報ニーズの分析, 情報システム(OIS, MIS, 情報サービスなど)の設計・構築・利用, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17 プログラミング言語	○斉藤信男 石畑 清 安村通晃 寛 捷彦	1. プログラミング言語の基礎理論(構文論, メタ言語) 2. プログラミング概念の形式的記述(データ構造論, 並行処理論, プログラムの検証, 言語設計) 3. 言語処理系の理論と実際 4. プログラミング支援環境(編集系, デバッガ, ユーザインタフェース)
18 情報学基礎	○藤原 譲 有川節夫 中村史朗 富永英義	1. データ・知識整備: 記述, 表現, 識別, 分類, 評価など 2. データ・知識流通: 媒体, 変換, 標準化, 多言語アクセスなど 3. データ・知識の基礎理論

昭和 62 年度研究会（新規）登録申込書

登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください（61 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 61 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「昭和 62 年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（3 月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限り、各研究会登録費は年間下表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録ください。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

（ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること）

昭和 年 月 日

申込み	研 究 会 名	登録費	申込み	研 究 会 名	登録費
	自然言語処理	3,000円		設計自動化	3,000円
	データベース・システム	3,000円		マルチメディア通信と分散処理	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		文書処理とヒューマンインタフェース	3,000円
	記号処理	2,500円		グラフィクスと CAD	2,500円
	ソフトウェア工学	3,000円		数値解析	2,500円
	マイクロコンピュータ	2,500円		ソフトウェア基礎論	2,500円
	計算機アーキテクチャ	2,500円		情報システム	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		プログラミング言語	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		情報学基礎	2,500円

（フリガナ）

○ 申込み会員氏名 _____ 【正・学・賛】 会員 No. _____

○ 勤務先名・所属 _____ Tel. _____

所在地（〒 _____）

○ 資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）

（〒 _____）

○ 登録費（年間）2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件 合 計 _____ 円也

○ 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途個人名を事務局までお知らせください。

☐ 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。

☐ 現金持参

☐ 郵便払込：払込用紙に希望研究会名を記入のこと。 口座番号「東京 5-83484」

☐ 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普）No. 1013945

○ 払込み日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

○ 情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。

（社）情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

* 登録者の氏名、連絡先のデータを F D に入れ、それを研究会活動の活発化に役立てるため利用したいとの要望が研究会主査（運営責任者）から出されております。

つきましては、お手数ですが F D の利用について支障なし、ありの別をご記入ください。

F D の利用 _____ 支障なし・あり _____

昭和 62 年度各種行事の予告について

4 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。
なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご留意ください。

行 事	期 日	会 場
第 28 回通常総会	5・20 (水)	機械振興会館
第 35 回全国大会	9・28 (月)～30 (水)	北海道大学工学部 教養部
第 36 回全国大会	63・3 中旬	(東京)
(シンポジウム)		
教育におけるコンピュータ利用の新しい 方法	6・25 (木)	機械振興会館
1987 年夏のシンポジウム	7・16 (木)～18 (土)	CSK 研修センター
第 20 回 情報科学若手の会	7・26 (日)～28 (火)	河口湖グラントホテル
コンピュータ・システム	11・5 (木)～6 (金)	機械振興会館
新しい情報通信——1995 年を展望して (仮題)	11・9 (月)	〃
マイクロコンピュータの現状と将来	11・16 (月)～17 (火)	〃
人工知能システムの枠組み	11・19 (木)～20 (金)	〃
アドバンスト・データベース	12・3 (木)～4 (金)	〃
グラフィクスと CAD	12・10 (木)～11 (金)	〃
第 29 回 プログラミング・シンポジウム	63・1・12 (火)～14 (木)	箱根・ホテル小涌園
1988 情報学	(1 月)	日本学術会議講堂
自然言語処理技術 (講習会)	1・21 (木)～22 (金)	機械振興会館
CAD エンジン	6・10 (水)	機械振興会館
幾何情報とモデルの入力手法	9・17 (木)	〃
(共 催)		
IFIP Workshop on CAD Engines	6・8 (月)～9 (火)	機械振興会館
13th IFIP Conf. on System Modelling and Optimization	8・31 (月)～9・14 (金)	中央大学理工学部
昭和 62 年電気・情報関連学会連合大会	9・10 (木)～12 (土)	工学院大学
5th Int'l. Workshop on DB Machines	10・5 (月)～8 (木)	軽井沢・万平ホテル
COMPSAC '87 国際会議	10・5 (月)～9 (金)	高輪プリンスホテル
第 18 回 画像工学コンファレンス	12・9 (水)～11 (金)	東京・農協ホール

昭和 62 年度第 28 回 通常総会の開催について

昭和 62 年度通常総会を下記によって開催いたします。総会の案内状は、正会員各位に別途郵送いたしますので、ぜひご出席ください。なお、ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

日 時	昭和 62 年 5 月 20 日 (水) 16:00~17:30
会 場	機械振興会館大ホール (地下 2 階)
総会次第	1. 会長のあいさつ 2. 昭和 61 年度事業報告および決算報告 3. 昭和 62 年度事業計画および予算審議 4. 昭和 61 年度功績賞の発表と表彰 5. 昭和 61 年度論文賞の発表と表彰 6. 新役員の選定 7. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ (無料) を行います。(会場 6 階 66 号室)
会員が一堂に会し、直接にお話しできる得難い機会ですので、皆様のご出席をお待ちいたしております。

第 20 回情報科学若手の会シンポジウム開催について

日 時	1987 年 7 月 26 日 (日)~28 日 (火)
場 所	河口湖グランドホテル (山梨県南都留郡河口湖町船津大池 6713-21)
定 員	50 名 (先着順)
参加資格	情報科学およびその関連分野で、研究・実務に従事している若手研究者・技術者
参 加 費	10,000 円 (食費込、遠距離からの参加者には交通費補助)
参加申込	A4 判の用紙に氏名、所属、学年、連絡先、電話番号、および発表題目、発表内容の要旨を記入して送付のこと。
申込締切	1987 年 6 月 30 日必着
申込・問合せ先	〒400 山梨県甲府市武田 4-3-11 山梨大学工学部計算機科学科 有澤研究室 若手の会事務局 (幹事代表 長野伸一、梶原洋一)

参加を内諾された先生方は以下のとおりです。

中西 正和 (慶大) 落水浩一郎 (静岡大) 小谷 善行 (農工大) 今宮 淳美, 有澤 誠
(山梨大) (順不同, 敬称略)

新年度にあたって（お願い）

——会費・購読費の納入，新会員勧誘など——

新年度にあたって，会員の皆様につきの点につきご確認いただき，あわせてご協力のほどお願いいたします。

（１） 62年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

1月下旬に会員個々に納付書（郵便振替用紙）を送付いたしました。未納の方は早急にご納入ください。

なお，本年3月に大学学部卒業予定の学生会員には，62年度会費は正会員（7,200円）として請求してあります。大学院修士課程に進まれた方は，学生会員として継続できますので，納付依頼書の記事を参照のうえ，会員番号を付し，大学院名・研究科名・専攻名，修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

（２） 滞納会費の納入

61年度会費未納者には，これまで再三にわたり請求いたしておりますが，このたびの請求によっても納付いただけない場合には，本学会から除名することがありますので，ご承知ください。

（３） 学会誌の送本先変更

勤務先，自宅住所に異動のある方は，必ず所定の「変更連絡届」用紙（4月号，10月号に添付）にて会員番号を付し，早速にご連絡ください。

（４） 退 会

書面（様式任意，はがき可）にてお申出ください。なお，61年度会費が未納の場合には，昨年4月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

（５） 論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は2月号に添付の申込書を使用して，お申込みください。

（６） 新入会員の勧誘

4月は新入会のチャンスです。入会申込書を前号末尾に綴込みましたので，入会をご勧誘ください。

情報処理学会第 35 回 全国大会論文募集要領

開催期日 昭和 62 年 9 月 28 日(月) ～30 日(水)

会場 北海道大学・工学部・教養部(札幌市北区 13 条西 8 丁目)

応募資格 本学会個人会員(正会員, 学生会員)に限ります。共同発表の場合には, 登壇発表者は会員でなければなりません。なお, 62 年度会費未納の会員は, 登壇発表ができません。また, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には申込みを受け付けません。入会申込書は前号巻末に添付してあります。(電気, 電子情報通信, 照明, テレビジョン各学会会員は全国大会の参加・発表は会員扱いとします。)

論文該当分野

1. 基礎理論および数値処理
a. 計算理論, b. アルゴリズム, c. ソフトウェア基礎, d. 数値計算, e. 数式処理
f. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
3. オペレーティングシステム
4. データベースシステム
5. ネットワークおよび分散処理
6. プログラミング言語とその処理系
a. 手続き型言語, b. 関数型言語, c. オブジェクト指向型言語, d. 論理型言語
e. その他の言語, f. 処理系実現手法
g. その他
7. ソフトウェア工学
a. 要求定義技法, b. 設計技法, c. プログラミング技法(エディタ等), d. テスト技法(デバッグ等), e. 支援環境, f. 開発・保守・運用, g. 品質・信頼性, h. 仕様作成・プログラム合成, i. その他
8. 自然言語処理
a. 解析および生成, b. 機械翻訳, c. 自然言語理解, d. 辞書・データ分析, e. テキスト処理, f. その他
9. 知識情報処理
a. 知識表現, b. 知識利用, c. 推論方式, d. 知識ベース, e. 問題解決, f. 知識プログラミング, g. エキスパートシステム, h. 知的インタフェース, i. 学習
j. その他
10. パターン処理
a. 文字認識, b. 音声, c. 図面処理
d. 画像処理, e. 画像データベース, f. 画像処理エキスパートシステム, g. ロボット, h. 画像理解, i. 画像計測, j. その他
11. デザインオートメーションおよびコンピュータグラフィクス
a. CAD, b. CAE, c. CAM, d. グラフィクス, e. シミュレーション, f. その他
12. オフィスオートメーション
13. 応用システム
a. 情報システム, b. ニュースメディア
c. 教育への応用, d. 芸術への応用, e. 産業への応用, f. 社会への応用, g. 情報処理教育, h. シミュレーション, i. その他

申込料 1 件につき 7,000 円です。ただし, 論文集原稿を提出する際に納入してください。なお, 講演申込を取消されても納入していただきます。

申込方法 添付の講演申込用紙(1 件 1 枚)に必要事項を記入し, 宛先明記の原稿用紙送付用封筒を同封のうえ, 62 年 4 月 28 日(火)までに(必着), 下記申込先へお送りください。登壇発表は原則として 1 人 1 件とします。ただし, やむを得ず 2 件以上になる場合には, 講演参加費は 1 件ずつごとに 7,000 円ずつを申しあげます(ただし, 論文集は 1 冊です)。なお, 連続発表希望の場合は, その旨を必ず明記してください。

論文提出 所定の原稿用紙を 6 月上旬に送付しますので, 昭和 62 年 7 月 20 日(月)までにご提出ください。発表は日本語または英語で行うものとし, 論文は日本語または英語に限ります。ただし, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には, 原稿用紙を送付しませんのでご注意ください。なお, 大会発表の全論文を JICST の JOIS に入力することとなっております。所定の用紙に標題, 発表者名とアブストラクト(150 字以内)を記述して, 論文と一緒に提出していただきます。

表彰 優秀な論文を登壇発表した新進の会員(学部卒業後 10 年未満またはこれと同等の者)には, 学術奨励賞を贈呈し, 次期大会時に表彰いたします。

申込先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 第 35 回全国大会係
Tel. 03 (505) 0505

「CAD エンジン」講習会開催について

来る6月8,9日開催の「IFIP Workshop on CAD Engines」シンポジウム(前号本欄参照)出席のため来日の海外著名研究者による標記講習会を下記により開催いたします。多数の方々のご参加をお願いします。

日 時 昭和62年6月10日(水) 9:00~17:00
場 所 機械振興会館ホール(地下2階)
共 催 電子情報通信学会, IEEE Tokyo Chapter (予定)
テ ー マ VLSI 設計のための CAD エンジン(専用ハードウェア)の最近の技術動向(4~5件を予定)……プログラムは5月号に掲載予定
講 師 「Workshop on CAD Engines」参加の海外研究者
参 加 費 会員7,000円, 学生会員1,500円, 非会員9,000円
申込締切 昭和62年5月29日(金)(定員150名に達し次第, 締切ります)

「CAD エンジン」講習会

参 加 申 込 書

昭和62年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 7,000円 非会員 9,000円 学生会員 1,500円

○送 金 方 法

_____円を_____月_____日送金します(金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留(送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 講習会係)

b. 銀行振込(いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945

富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

三井銀行本店 4298739

住友銀行東京公務部 10899

三和銀行虎ノ門東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書

通, 見積書

通, 納品書

通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人として下さい(この用紙のコピーで可)。

「マイクロコンピュータの現状と将来」

シンポジウム論文募集

マイクロコンピュータは、その高機能化・高速化・小形化により、従来のマイクロコンピュータ概念に変化が起きています。そこで、この問題に関係する広い分野の研究者や利用者が一堂に会して、各々の立場から研究成果を発表し、現在のマイクロコンピュータの基礎技術、構築技術、応用技術などの状態を把握し、解決すべき問題点を摘出し、将来の超 LSI 化コンピュータの発展を占うのは意義あることと考えます。

このような観点から、マイクロコンピュータ研究会では、表記のシンポジウムを開催し、研究発表ならびにパネル討論を行うことを決定しましたので、下記により論文を募集します。

日 時 昭和 62 年 11 月 16 日 (月), 17 日 (火) 10:00~17:00

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

内 容 マイクロコンピュータに関する、次のテーマについて論文を公募し、招待講演やパネル討論をおり混ぜて発表する。

- (1) 個人コンピュータ間通信 (端末プログラム, 電子掲示板, 複合媒体通信など)
- (2) 電子化作業台 (ワークステーション)
- (3) 半導体チップ (32 ビットマイクロプロセッサ, AI プロセッサ, アーキテクチャなど)
- (4) 机上出版系 (装置, 処理言語, 文書構造体系, 文書交換など)
- (5) 操作系 (マイクロコンピュータ用 OS, プログラム言語など)

発表申込 5 月 31 日までに発表要旨を, A4 判用紙 1 枚程度にまとめ, 下記あてお送りください。

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会

「マイクロコンピュータの現状と将来」シンポジウム係

Tel. 国外 (81) 3 (505) 0505, 国内 03 (505) 0505

採否については 7 月 1 日 (水) までに通知します。採用決定者の論文提出期限は 9 月 30 日です。

なおこのシンポジウムに関するお問合せは下記にお願いします。

マイクロコンピュータ研究会

主査 若鳥 陸夫	日本ユニパック(株)技術研究部	Tel. (81) 3 (585) 4111
幹事 岡田 義邦	電子技術総合研究所論理システム研究室	(81) 298 (54) 5457
幹事 山田 剛	早稲田大学理工学部小原研究室	(81) 3 (209) 3211
		(内 3418)
幹事 森本陽二郎	東芝総合研究所情報システム研究所	(81) 44 (511) 2111

「画像処理エキスパートシステム」特集号の論文募集

論文誌編集委員会

情報処理学会論文誌編集委員会では、画像処理と知識工学の融合した新しい画像処理技術が急速に発展しようとしていることに鑑み、論文誌にて「画像処理エキスパートシステム」特集号を昭和 63 年 1 月を目標に発行することにいたしました。このテーマに関する論文を会員から募集しますので、下記をご参照のうえ、奮って寄稿されますよう切望いたします。

1. 対象分野

画像処理エキスパートシステムに関する研究

2. 論文の執筆と取扱い

以下の点を除き通常の一般論文と同一としますので、論文誌原稿執筆のしおりをご参照のうえ、執筆・寄稿をお願いいたします。

(1) 特集号にできるだけ多数の論文を掲載するため、論文のページ数は 1 件 8 ページ（刷上り）以内に厳守してください。

(3) 論文には「画像処理エキスパートシステム」特集号論文と朱記すること。なお、特集号としての総ページ数制限を守るため、応募論文の中から通常の一般論文にまわす場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、査読後の再提出期間（通常は 90 日）は短縮する場合があります。

3. 論文寄稿締切日 昭和 62 年 5 月 30 日（土）必着

論文誌、欧文誌の購読のおすすめ

論文誌、欧文誌の 62 年度からのご購読をおすすめいたします。2 月号に綴込みの申込書（受取人払い）により、早速にお申込みください。

なお、購読費は、62 年 6 月の会費請求時に、請求させていただきます。

第5回 データベースマシン国際ワークショップ 日本開催と論文募集

標記国際会議は情報処理学会と ICOT (新世代コンピュータ技術開発機構) で本年10月軽井沢において共催いたします。論文要綱がきまりましたのでご準備ください。

正式名称 The 5th International Workshop on Database Machines

日時 1987年10月5日(月)～8日(木)

会場 長野県軽井沢 万平ホテル

組織委員会 General Chairman: 田中 英彦 (東大)

Program Chairman: 喜連川 優 (東大) Publicity: 雨宮 真人 (NTT)

Local Arrangements: 伊藤 英則 (ICOT) Industry Liaison: 松下 温 (沖電気)

Treasurer: 山本 昌弘 (日電) General Affairs: 牧之内顕文 (富士通研)

プログラム委員会 (Tentative)

D. Bitton (Cornell Univ., USA)

H. Boral (MCC, USA)

D. J. DeWitt (Wisconsin Univ., USA)

O. Ellen (DEC, USA)

S. Fushimi (Mitsubishi, Japan)

G. Gardarin (INRIA, France)

L. Hollaar (Univ. of Utah, USA)

D. K. Hsiao (Naval Post Grad School, USA)

K. Iwata (Toshiba, Japan)

Y. Kambayashi (Kyushu Univ., Japan)

Y. Kiyoki (Tsukuba Univ., Japan)

A. Kokubu (ETL, Japan)

F. Bancilhon (MCC, USA)

T. Kurokawa (IBM, Japan)

H. Leilich (Braunschweig Univ., FRG)

A. Makinouchi (Fujitsu, Japan)

M. Missikoff (I. A. S. I.-C. N. R., Italy)

P. Neches (Teradata, USA)

V. Nichola (ECRC, FRG)

A. Recoque (Bull, France)

H. Schweppe (Freie Univ., FRG)

S. Y. W. Su (Florida Univ., USA)

Y. Tanaka (Hokkaido Univ., Japan)

M. Ubell (Britton Lee, USA)

S. Yoshizumi (Hitachi, Japan)

論文募集要綱 締切り 1987年5月15日(金)

論文体裁 フルペーパー 4部 5,000語, 英文

主要テーマ

Database Machines

Database Machine Architecture

Filter Processors/Sorting Processors

High Performance Secondary Storage Systems

Software for Database Machines

Performance Evaluation

Main Memory Based Database Machines

DBMS Software/Algorithm

Transaction Processing System

Knowledge Base Machines

Knowledge Base Machine Architecture

Semantic Network Machines

Production System Machines

Prolog Machines

Software for Knowledge Base Machines

AI Machine Architecture

AI Software/Algorithm

論文提出先 〒107 東京都港区六本木 7-22-1 東京大学生産技術研究所

喜連川 優 Tel. 03 (402) 6231 内 (2356) Fax 03 (423) 2834

Call for Papers を必要な方はお申出ください。

夏のシンポジウム「究極のプログラミング環境」

プログラム作成の生産性を向上させるにはハード、ソフトともに洗練された環境を用意することが絶対に必要と認められて久しくなります。そして日を追って新しい、さらに使い易い環境が用意されつつあります。これらの環境は今後はたしてどこへ向かってゆくのか、今年の夏のシンポジウムは多少夢のシンポジウムの趣きはありますが、「究極のプログラミング環境」ということで討論したいと考えます。

次のような内容の発表を歓迎しますが、必ずしもこれだけにはこだわられません。面白い話題を自由に探してください。

- 総合的プログラム開発環境
- システム構成要素各論（プログラミング言語、エディタ、デバッガ、実行環境、ウィンドウシステム、ネットワークファイルシステム等）
- 複数プログラマによる協調的開発のシステム支援
- プログラミング環境の使用経験、フィロソフィ、サイコロジー

夏のシンポジウムは、参加者全員にご意見を提供していただくことが原則です。発表者以外でも、積極的に討論に加わってくださる方々の参加を歓迎いたします。

日 時 1987年7月16日（木）午後1時～18日（土）正午

場 所 CSK 大室山荘（伊豆急 伊豆高原駅下車そこからバス）

参 加 費 20,000 円

定 員 55 名（先着順）

参加申込 5月30日までに A4 判用紙に下記事項をこの順に記載し、情報処理学会シンポジウム係へ送付のこと。

（1）氏名、（2）所属（部局まで詳細に）、（3）連絡先（住所、電話番号）、（4）発表を希望する場合はそのテーマと要旨

問合せ先 学会事務局または

和田 英一（東京大学工学部計数工学科）Tel. 03 (812) 2111（内 7410）

平賀 譲（図書館情報大学）Tel. 0298 (52) 0511（内 314・315）

「人工知能システムの枠組み」シンポジウム論文募集

人工知能は新時代の知的情報システム作成の基盤技術として、大きな期待が寄せられています。人工知能システムは明示的な知識に基づくため、知識システムとも称されます。ここ数年、知的あるいは高度情報処理を目指すエキスパートシステム、自然言語や画像の理解等の人工知能システムの研究開発が進められてきました。しかし、それらが実用域のシステムに発展するためには、これまでの幾つかの開発の経験の蓄積をふまえた上で、新しい枠組みが必要と考えられます。

本シンポジウムは、従来の情報処理技術と異なるどのような人工知能システムの新たな枠組みが必要なのか、従来技術との共通点は何か、真の実用化のために今日の人工知能システムの枠組みに欠けているものは何かなどを問い、今後のアプローチの方向を見い出すことを目的としています。このためサブテーマとして、知識の高次利用と学習、知能処理のシステム化技法、知的インタフェースなどを設け、理論と実際の両側面から研究成果を発表し、討論を行います。

このような趣旨で、知識工学と人工知能研究連絡委員会では下記の内容、要領で発表論文を募集しますので、奮ってお申し込みください。

- 日 時** 昭和 62 年 11 月 19 日 (木)～20 日 (金) 9 時～17 時
- 場 所** 機械振興会館大ホール (地下 2 階)
- 内 容** (1) 知識の高次利用と学習
メタ推論, 常識推論, 学習, 認知モデル, 知識高次利用の応用等
- (2) 人工知能のシステム化技術
エキスパートシステムの実用化, エンジニアリング応用, データベースとの統合技術, 深い知識とモデルの利用, 知識ベース管理等
- (3) 知的インタフェース
自然言語理解, 画像・音声理解, グラフィック・インタフェース, ユーザモデル等
- 共 催** 人工知能学会
- 発表申込** 7 月 18 日 (土) までに A4 判用紙を用い原則として 14,000 字以内(図表を含む)の論文を, コピー 2 部を添付して下記あてお送りください。
- 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 情報処理学会
「人工知能システムの枠組み」シンポジウム係
- 採否については 8 月 14 日までに通知いたします。最終発表論文原稿の提出期限は 10 月中旬の予定です。
- そ の 他** シンポジウムでは招待講演とパネル討論も予定しています。本シンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いします。

〔情報処理学会・知識工学と人工知能研究会〕

(主 査)	堂下 修司	京大工学部情報工学教室	Tel. 075 (751) 2111 (内線 5376)
(シンポジウム幹事)	石塚 満	東大生産技術研究所	Tel. 03 (402) 6231 (内線 2651)
(シンポジウム幹事)	西田 豊明	京大工学部情報工学教室	Tel. 075 (751) 2111 (内線 5396)

〔人工知能学会〕

大須賀節雄 東大工学部境界領域研究施設 Tel. 03 (485) 3111 (内線 309)

(シンポジウム幹事) 石崎 俊 電総研推論システム研究室 Tel. 0298 (54) 5418
(シンポジウム幹事) 米沢 明憲 東工大理学部情報科学科 Tel. 03 (726) 1111 (内線 3209)

第 13 回 IFIP Conference on System Modelling and Optimization 参加者募集について

この会議は工学，自然科学，社会科学を対象とする数学モデルおよび最適化の最近の成果について討議することを目的としています．論文審査の結果，28カ国 163 の論文の採択が決定しております．多くの方のご参加をお願いします．

日 時 1987 年 8 月 31 日(月)～9 月 4 日(金)
場 所 中央大学春日校舎 (東京都文京区春日 1-13-27)
主 催 (社)情報処理学会, IFIP (TC 7)
後 援 IFAC, IFORS/APORS
協 賛 (社)計測自動制御学会, (社)電子情報通信学会, (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会, 日本自動制御協会, 日本シミュレーション学会, (社)日本数学会
参 加 費 24,000 円 (6 月 2 日以後 28,000 円)
会議の案内・登録用紙をご希望の方は下記まで送料 170 円を同封のうえご請求ください．
連 絡 先 〒151 渋谷区千駄ヶ谷 4-30-3 (株)日本科学技術研修所内
IFIP TC 事務局 矢島敬二 Tel. 03 (479) 1700

学会誌送本先の住所等の変更届について (お願い)

年度の終りから始めにかけては異動期で，会員の住所や所属の変更が殺到いたします．事務処理の誤りを防ぎ能率化するため，勤務先，自宅住所に異動のある方は，必ず所定の「変更連絡届」用紙(本号末尾に添付)にて氏名，会員番号を付し，早速にご連絡ください．なお，異動の受付は毎月 20 日に締切り，翌月号から変更いたします．21 日以降受付分の変更は翌々月号からとなります．

第18回画像工学コンファレンス論文募集

画像工学コンファレンスは1970年の発足以来、関連学会・研究会の共通の研究発表、討論の場として、日本の画像関係の研究開発の発展に大いに寄与して参りました。本年も新たな発展を期し、第18回画像工学コンファレンスを開催することに致しました。また、'87国際画像機器展（日時：12月9日～11日、場所：都立産業貿易会館）を併催致します。奮ってご応募下さい。

日時 昭和62年12月9日(水)～11日(金)

場所 農協ホール(東京・大手町)

趣 旨 画像工学は光学、エレクトロニクス、写真・印刷などの広い分野の技術に支えられ、学術・産業・医療・民生にわたる分野の発展に貢献しております。本コンファレンスは日頃活動分野を異にする方々が一堂に会して交流を図ることにより、画像工学分野の研究開発およびその応用をさらに活発化することを目的としています。

構 成 招待講演と、応募による一般講演およびポスタ講演により行います。一般講演は、本会場にて研究発表を行います。ポスタ講演は、ポスタ会場の決められた場所で図表、写真、実物等を示し、興味をもつ聴衆と自由に質疑、討論を交わしながら研究発表を行うものです。一般およびポスタ講演ともオーディオビジュアル機器などを用いたデモンストレーションができます。

なお、ポスタ講演のなかで優秀な発表に対して賞をおくります。

募集論文の性格 論文として未発表のものに限ります。ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。

募集論文の内容 画像の入力・記録・蓄積・伝送・表示・コピー・処理などの基礎・材料・デバイス・システム・方式・応用・評価および知覚に関連する内容を募集対象とします。なお、今回は「高精細画像デバイスをめざして」と題した特別セッションを予定しています。

応募資格 特に資格を問いません。

応募論文の審査 応募論文はプログラム委員会において、申込時提出の内容概要で審査いたします。また、プログラム編成上、一般講演とポスタ講演との変更をお願いすることがあります。

講演形式・時間 一般講演：質疑応答を含め20分(予定) ポスタ講演：ポスタ会場での発表討議90分(予定)

講演申込方法 A4横書・図表などを含め2枚以内(800字程度)の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書(コピーでも可)を下記の送付先にお送り下さい。(FAXでも結構です)

申込締切 昭和62年7月1日(必着)

論文集原稿 採択論文については一般、ポスタとも、図・写真・表を含め7000字以内のカメラレディ原稿(タイプ又はワープロ)を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます(ただし実費自己負担)。

原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月上旬、論文採否通知とともに連絡します。

論文集原稿締切 昭和62年10月27日(必着)

主 催 第18回画像工学コンファレンス実行委員会

(担当 電気学会・電子デバイス技術委員会・量子デバイス技術委員会)

加盟学会・委員会 応用物理学会・光学懇話会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会・画像通信システム研究委員会・画像処理画像応用研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・量子デバイス技術委員会、電子情報通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識理解研究専門委員会、日本ME学会・医用画像のデジタル処理研究会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会。

送付先・問合せ先 〒105 東京都港区芝大門2-3-14 一松ビル1号館402号室

「第18回画像工学コンファレンス事務局」 ☎ 03-433-2541 (FAX 433-2544)

第18回画像工学コンファレンス講演申込書

題 目		講演形式 の 希 望	デモンストレーション 機 器
氏 名		☐ ポスタ 講 演	☐ V T R ☐ マイコン・パソコン
連絡先 (住所 所属 電話)	〒 ☎	☐ 一 般 講 演 ☐ どちら でも可	その他() ☐ 使用しない 持込み・借用

データフローワークショップ開催について

- 日 時** 昭和 62 年 10 月 21 日 (水)・22 日 (木)・23 日 (金)
- 会 場** (財)関西地区大学セミナーハウス
- 主 題** (1) データフローアーキテクチャを囲む諸側面 (モデル, 言語, システム)
(2) 並列処理一般の枠組みにおけるデータフロー概念の応用
(3) 並列処理のための一般モデル (リダクション, CSP など)
今回はデータフローとその周辺技術に限らず, 並列処理方式に関する研究の新しい展開をはかることを目的としております。
- 主 催** 電子情報通信学会データフローアーキテクチャと並列処理時限研究専門委員会
- 共 催** 情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会, 日本ソフトウェア科学会
- 発表希望者は 7 月 6 日 (月) までに 1,000 字 (A4 判 1 ページ) 以内の概要を下記まで送付願います。なお, 審査結果通知は 7 月 13 日 (月) ごろとなります。
- 〒180 東京都武蔵野市 3-9-11 日本電信電話会社基礎研究所
第二研究室 高橋直久 Tel. 0422 (59) 3586
- 〒565 吹田市山田丘 2-1 大阪大学工学部電子工学科
寺田研究室 西川博昭 Tel. 06 (877) 5111 (内 5018)

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

- 電気通信標準化国際シンポジウム '87
1987 年 7 月 8 日 (水)~9 日 (木) 経 団 連 会 館
- 宇宙用人工知能・ロボット・オートメーションシンポジウム
昭和 62 年 11 月 9 日 (日)~10 日 (火) 日本都市センター
- 「知識情報の表現」に関する国際集会 (ICIK '87)
1987 年 11 月 11 日 (水)~13 日 (金) 神奈川県県民ホール (予定)
- 第 5 回ロボット学会学術講演会
昭和 62 年 11 月 26 日 (木)~28 日 (土) 筑波大学第三学群

*詳細は本号会議案内欄参照

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌「Journal of Information Processing (JIP)」に積極的に論文をお寄せください。投稿規定の詳細は JIP 各巻第 1 号に掲載されていますからご参照ください。JIP では (1) 掲載論文について、英文を母国語民に手入れしてもらうことができます。また (2) 論文の著者は掲載誌 10 部を、望む海外の寄贈先に送ることができます。なお (3) 目下査読期間短縮のため、種々の手を打っています。なお、以下にその要約を示します。

欧文誌の性格、掲載論文種別

JIP は英文による学術雑誌である。掲載論文等は (1) 原著論文、(2) ショートノート、(3) 学会出版物のアブストラクト、(4) その他、とする。(1) と (2) を募集する。

A. 投稿方法

(1) 原稿は 4 部提出する。原著論文は刷り上がり 8 ページ以内を一応の目安とする。ショートノートは 2 ページ以内に限る。

(2) 図面は原則として原本を提出する。

(3) 著者紹介 (英文) および写真を添付すること。

(4) アブストラクトは 3 種必要である。すなわち、

a 論文冒頭に掲げる英文アブストラクト (原著論文では 200 語以内、ショートノートでは 50 語以内)。

b 前項の和訳。「情報処理」に掲載される。

c 刷り上がり 1 ページ (表題、著者名などを含めて) の和文要約。図、表等を含んでよい。和文論文誌に掲載される。ただしショートノートにあっては刷り上がり 0.5 ページとする。それだけを見れば論文の性格はわかり、読者に読んでみたいという気を起こさせるようなものであることが望ましい。

なお著者が日本人でない場合には (b) を省略し、(c) は英語版を提出することにしてもよい。その場合は編集委員会が必要な翻訳をおこなう。

(5) 査読割当ての便宜のため、所定の質問表に回答を記入して添付すること。

(6) 著者の所属、郵便送付先を明示した書状を添えること。日本語でも可。

B. 原稿の形式

(1) A判用紙 (21 cm×30 cm) の片面にダブルスペースでタイプ打ちを原則とする。用紙寸法は 8.5"×11" (レターサイズ) でもよい。たとえば 1 行 65 文字、1 ページ 28 行とし、上下 3 cm (強) の余白を残し、パラグラフの先頭を 5 字分あける。ただし印字品質が十分よくて読み違いの恐れがなく、査読者が書き込みをするためのスペースが十分あり、かつ分量の計算が容易にできるようなものであれば、これ以外の形式 (たとえばレーザービームプリンタの出力) であっても差し支えない。刷り上がり 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度であるが、図等があればその分のスペースを考慮すること。

(2) 前節 A の (4) に記載のとおりのアブストラクトを含めること。

(3) 表題、著者名、および所属は別紙とする。共著の場合には、著者と所属の間の対応を明示すること。

(4) 引用文献リストは「JIP」形式による。くわしくは英文投稿規定または最近の JIP を参照のこと。

(5) 図のキャプションをまとめて別紙に示すこと。

(6) その他英文原稿作成の常識にしたがうこと。

C. 図面の形式

(1) 図は学会ではトレースができないので、鮮明で汚れがなく、コントラストのよいものを提出する。

(2) できればA4判の用紙等を用いる。レターサイズでもよい。

(3) グラフは座標軸のみとするか、主だった格子のみ示すこと。

(4) レタリングが小さくなりすぎないように注意する。

(5) 写真は光沢焼きとし、十分なコントラストと濃淡を持つ常識的な寸法のものとする
こと。

(6) 図面原本には裏面に鉛筆で番号を振り、著者名を書いておくこと。

D. 査読

投稿原稿は査読される。採否の最終的判断は編集委員会でおこなうが、内容についての最終的責任は著者にある。

E. その他

(1) 投稿原稿は返却しない。

(2) 掲載論文等の著作権は学会に帰属する。

(3) 著者または著者の所属先に、別刷100部を下記価格で購入していただく。

Pages	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Prices	¥5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

支 部 だ よ り

情報処理学会東北支部大会講演募集

——昭和 62 年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日** 昭和 62 年 8 月 27 日 (木), 28 日 (金)
27 日(木) 一般講演, 技術報告 午後・特別講演 28 日(金) 一般講演, 技術報告
27, 28 日の両日, 展示会 (計測機器, 電子通信機器, 電力機器ほか)
- 会 場** 秋田大学鉱山学部 (秋田市手形学園町 1-1)
- 申込方法** (1) 「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600 字」「原稿の書き方」と共に
渡す。郵送希望の場合は 1 部 170 円 (2 部以上の場合は 1 部増すごとに 70
円増) の郵送料を添えること。
(2) 一般講演及び技術報告の予稿集はオフセット印刷とするので, 必ず所定の
原稿用紙を使用すること。
(3) 申込件数の制限は 1 名 2 件までとする。ただし, 連名は差し支えない。
(4) 発表者は講演申込と同時に必ず講演申込金として 1 件につき 3,000 円を
添えて申込むこと (論文集代, 別刷 50 部代を含む)。
- 申込・原稿締切日** 7 月 3 日 (金) 必着厳守 (申込書と原稿を同時締切とする)。
- 論 文 集** 発表者には, 大会当日受付にて配付する。購入希望者は, 所要部数を早めに申込
むこと (1 部 2,500 円, 郵送料 1 部 500 円)。
- 申込・問合せ先** 〒980 仙台市荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内
電気関係学会東北支部連合事務局 庄司
Tel. 022 (222) 1800 (内 4312)
- 懇 親 会** 8 月 27 日 (木) 18:00~ (場所未定) 会費 3,000 円
申込先は講演申込先と同じ。申込は当日大会会場でも受付ますが, 準備の都合上
できるだけ事前に申込むこと。

昭和 年 月 日

研究会発表申込書

太線枠内のみご記入下さい.

研究会名	研究会		
発表希望の 研究会開催日	昭和 年 月 日 ()		
タイトル			
発表者名			
概要 (50 字以内)			
原稿用紙送付先住所	〒	Tel.	— (内線)
氏名			

昭和 年 月 日受付

研究会名	資料 No.	開催日	幹事送付済み	その他
		昭和 年 月 日		